

第1学年 生活科学習指導案

日 時 平成23年11月16日(水)5校時

児 童 男子30名 女子29名 計59名

指導者 日野 玲子 佐藤 聡幸

場 所 多目的ホール

1 単元名 あきと ともだち

2 単元を展開するにあたって

(1) 児童の実態

- ・自分の思いを伝え合う活動として、児童はこれまで国語や算数の中でのペア学習や全体での発表を通してかかわり合う力を伸ばしている。また、生活科の学習では、1学期にアサガオの種の気持ちを考え発表する活動を経験している。自分の興味・関心があることについては、意欲的に聞き手に考えを伝えようとすることができ、話すことが好きな児童である。
- ・これまで児童は、「はるとともだち」「なつともだち」の単元やレクタイム・昼休み等の外遊びを通して、自然とかかわってきた。そのため、春夏の季節の違いや、暑い時期の生き物や草花について興味・関心を高めている。また、アサガオを使った実験やアゲハチョウの幼虫の観察を通して自然のものを観察したり、自然のもので遊んだりする楽しさにも気づき始めている。但し、これまでの学習では、図鑑を使って植物を調べたり、自然のものを使って思いきり遊んだりした経験は十分とはいえない。
- ・児童は、入学して7ヵ月が経ち学校生活に慣れてきている。人にもものを教えることが好きな児童が多く、勉強を友達に教えたり、ルールを守らない友達を注意したりする姿も多く見られる。しかし、幼稚園・保育園の年長から1年生へと進学し、小学校では、世話をしてもら側という意識が強い。そのため、自分本位の考えや行動をする児童も多く、責任感が薄れがちである。

(2) 単元について

- ・本単元は、目標の(2)(3)(4)内容の(3)(4)(5)(6)(8)に関わって設定したものである。特に本時では、目標の(4)「身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの方法により表現し、考えることができるようにする。」内容の(8)「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。」に重点を置いて指導する。
- ・本単元は、科学的思考力の素地を養う部分と社会的思考力の素地を養う部分が含まれた単元である。夏までの自然とのかかわりによって育まれた自然への興味・関心を基に、秋の自然を探し、調べたり、分類したり、遊んだりすることで、より知的好奇心・探究心を伸ばし、たくさんの方の気づきを生むことができると考える。また、自分たちが作り、実際に体験した秋の遊び道具を幼稚園・保育園の年長児(以下、年長児とする。)に紹介する活動の中で、楽しみながら人とかかわらせたり、自分の役割をやり通す責任感・自分自身への自信に気付かせたりすることで、自立への基礎を養うことのできる単元である。
- ・本時の学習を通して、たくさん自然とかかわらせ、自然の中で遊ばせることによって、児童に自然とかかわることの楽しさに気付かせ、より自然への興味関心や探究心を伸ばしたい。また、年長児へのかかわり方を考えさせることで、相手意識をもって適切に人と接することの大切さ

や、自分の考えを表現することの楽しさに気付かせたい。

(3) 指導にあたって

<でであう>

秋や秋の遊びに関する本をたくさん読ませ、意欲的に秋の自然にかかわらせたり、秋の自然で自分がどう遊ぶか想像を膨らませたりさせたい。

<かかわる>

「あきみつけビンゴ」や「フィールドビンゴ」などの活動を通して、意欲的に秋とかかわらせたい。また、落ち葉の上に寝転ばせたり、木に抱きつかせたりしながらダイナミックに秋を感じさせたい。さらに、見付けた自然を特徴ごとに分類する活動を通して、自然の不思議さや様々な違いに気付かせたい。

<あらかわす>

「あきのおもちゃづくり」を通して、自然とかかわることの楽しさや自然の温かみに気付かせたい。また、作ったおもちゃで存分に遊ばせることで、遊びの中で自分が感じた感動や喜びを年長児にも味わわせたいという思いを高めさせたい。

<ひろげる>

自分たちが体験した秋遊びの感動を年長児に伝える活動「あきのたからものランド」を通して、相手を意識しながら人とかかわることの大切さや、自分の思いを表現する喜びに気付かせたい。

3 単元の目標

(1) 単元目標と評価規準

- ・季節の変化を味わいながら、見付けた木の実や葉を使って遊んだり、公園や野原、学校の周りで秋を探したりして、自然のよさを自分なりに感じ取ろうとする。
- ・友達と力を合わせていろいろなものを作ったり遊んだりしながら、自分たちの生活を楽しくしようとする。
- ・自分たちで作った「あきのおもちゃランド」に年長児を招待して一緒に遊ぶことで、主体的に人とかかわる楽しさや相手に応じた適切なかわり方があることに気付くことができる。
- ・学校や公園、通学路などの自然の様子から季節の変化に気付き、秋の自然の中で遊ぶことの楽しさに気付くことができる。

[関心・意欲・態度]

秋を探したり調べたりする活動の中で、見付けてきた木の実や葉っぱなどの自然物を使って遊ぶものを作ったり、友達と楽しく遊んだりしようとしている。

[思考・表現]

遊びを楽しくするために材料や遊び方を工夫したり、「あきのたからものランド」に招待する子どものことを考えて計画を立てたりしている。

[気付き]

秋になると自然の様子が変わること、自然の中で遊んだり身の回りのものを使って作ったり遊んだりすること、身近な人と交流することの楽しさに気付いている。

(2) 育てたい力

育てたい力	方法
身近な人々や社会、自分とのかかわりなどに気付く力	・「あきのたからものランド」での、年長児へのかかわり方を考えさせる。
興味あるものに積極的に働きかける力	・友達と協力して「あきのおもちゃづくり」や「あきのたからものランド」の相談をさせる。 ・自然を使ってどのように遊べるか考えさせ、実行させる。
気付いたことや考えたことを進んで表現する力	・自分が考えた「あきのおもちゃ」を作らせる。 ・自分たちが考えた年長児へのかかわり方を劇化させる。 ・友達のおもちゃのよさや改善点を、「よかったよカード」へ書かせ伝えさせる。

5 本時の学習

(1) ねらい

- ・年長児への適切なかかわり方があることに気付くことができる。[気付き]

(2) 仮説とかかわって

【手立て1 自分の思いをもたせる工夫】

- ・年長児へのよりよいかかわり方について考えをもてるように、電子黒板でこれまでの学習を想起させたり、「よかったよカード」により他者の意見を基に考えさせたりする。

【手立て3 思いを広げ、深めるための伝え合う場の設定と学習形態の工夫】

- ・自分の考えを深めるために、「よかったよカード」を基に、自分のグループの改善点を話し合わせたり、ロールプレイングをさせたりする。

(3) 展開

学習活動・予想される児童の反応	形態	教師の支援 評価 観点 (方法)
<p>1 これまでの「あきとともだち」の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <p>ねんちょうさんに「あきのたからものランド」をたのしんでもらうくふうをかながえよう。</p> <p>・「あきあそび」はすごく楽しかったな。 ・〇〇遊びは、少し難しかったぞ。 ・自分たちのグループにはどんな「よかったよカード」がくるかな。</p> <p>2 グループ毎に年長児に楽しんでもらうくふうを考える。</p> <p>・優しい言葉遣いがほしいね。 ・ルールをもう少し簡単にしよう。 ・やってみてお手本をみせたら？ ・何回もやらせてあげよう。 ・賞をあげたらよろこぶかな。 ・上手にできた時ほめてあげよう。</p>	<p>全</p> <p>グ</p>	<p>・前時までに、自分たちがつくったおもちゃで存分に遊ぶ様子を見せ、遊びの楽しさや感動を思い出させる。</p> <p>・「よかったよカード」をひとつ取り上げて、全体の場で改善点を考えさせてみることで、本時の活動の見通しをもたせる。</p> <p>・「よかったよカード」の中身を精査した理由を簡単に話しておく。</p> <p>【手立て1】 電子黒板にこれまでの学習や「よかったよカード」を提示することで、年長児を楽しませる工夫を考えさせる。</p> <p>・よい工夫の観点（みんなが・じかんないに・よろこべる）を与える。</p> <p>・「よかったよカード」を事前に確認しておき、よい工夫の観点に照らしながら考えられる改善点のみを提示し、話し合いを焦点化させる。</p> <p>・自分の考えを付箋に書かせ、グループシートにはらせながら話させる。</p> <p>・あえて話型を設定しないことで、自由に活発な意見交換をさせる。</p> <p>【手立て3】 「よかったよカード」によって話し合いの焦点を絞って考えさせる。</p> <p>[気付き] 相手や目的に応じた伝え方が分かっている。（発表）</p> <p>・ここでの一時的評価をしておき、評価規準に達していない児童を見取って、活動3・4・5で支援していく。</p>

3 グループ毎にロールプレイングをする。

- ・「～してください。」「分らなかったら手伝ってあげるからね。」(優しい言葉遣い)
- ・まずは、ぼくが手本を見せます。(手本)
- ・すごい! じょうずだね! (ほめる)
- ・回数を減らしてたくさんの子に遊ばせている。
- ・待っている子への声掛けをしている。

4 ペアグループのよかった意見を出し合う。

- ・ルールが分りやすかったよ。
- ・やさしくてよかった。
- ・賞ももらえてうれしいと思う。

5 学習カードに工夫について気付いたことや感想を書く。

6 よかった意見を全体場で交流し合い、学習のまとめをする。

- ・ルールが分りやすかったので、自分たちも同じようにしたい。
- ・優しい言葉遣いがよかった。
- ・お手本をみせるのは分りやすくていいと思った。
- ・本番は今日の工夫を使ってみたい。
- ・早く、「あきのたからものランド」に年長さんを招待したい。

7 次時の活動の確認をする。

全

- ・ペアグループを設定しておき、一方に年長児役をさせて、考えた工夫を試させる。
- ・よい工夫の観点を再度提示し、ペアグループの工夫を評価させる。

【手立て3】

ロールプレイングをさせることで、楽しみながら考えた工夫を試させたり、年長児の立場になって考えさせたりする。

- ・自分が年長児役のときにされて嬉しかった工夫を思い出させる。
- ・今回ペアグループに褒められた工夫や、自分がされて嬉しかった工夫を思い出させ、書かせる。
- ・次回に生かしたい工夫を書かせる。
- ・全体場での意見交流へ向けて、紹介したい児童の意見を選んでおく。
- ・移動黒板に出された意見を掲示し、次回に生かせるよう視覚的にまとめていく。
- ・次時は「あきのたからものランド」本番であることを確認し、本場で考えた工夫を使って年長児に接することができるよう意欲付けをする。
- ・学習カードを回収し、一時評価との変容を見とったり、最終的な学習状況の把握に生かしたりする。

4 単元の計画 (本時 1 1 / 1 4 時間)

過程	小単元	主な学習活動 ◎ねらい ○活動 予想される児童の思考	教師の支援	評価規準と方法		
				関心・意欲・態度	思考・表現	気付き
であう 1	あきとともだち①	◎秋の校庭や毛越寺・観自在王院の様子がどう変わったのかに興味をもち、活動への見通しをもつことができるようにする。 ○秋の校庭が夏と比べてどう変わったのか予想する。 ○校庭に出て秋を探す。 ○それぞれが見付けた秋とどうしてそう思ったのかを発表する。 ・秋ってどんな季節だろう？ ・秋は赤や黄色が多いと思う。 ・どんぐりは夏の後に出てくるから秋だと思う。	・春と夏の校庭を想起させられる秋の校庭予想シートを作成し、変化を予想させる。 ・秋の木の実や木の葉を使った遊びの写真を見せ、どんなことをしていきたいか考えさせる。	活動への見通しをもっている。 (観察・学習シート)	秋の校庭の変化を、夏の頃の様子と比べながら考えている。 (観察・学習シート)	植物や動物の変化や気温の変化などに気付いている。 (観察・学習シート)
かかわる	あきをかんじよう②③④⑤	◎秋の校庭や毛越寺・観自在王院に行って遊んだり、生き物を探したりして季節の変化に気付くことができるようにする。 ○探検の計画を立てる。 ○春や夏に虫を見付けた場所で虫を探したり、声をたよりにすみかを探したりする。 ○木の実や落ち葉を集め、色や形で分類してみたり、その場でできる自然遊びを楽しんだりする。 ○遊んで楽しかったことや気付いた事など、心に残っていることを絵や文にして表す。 ・秋は涼しいな。 ・秋の葉っぱには赤くなるものがあるんだな。 ・秋は、赤や黄色や茶色が多いな。 ・秋の木や葉っぱからは優しい声が聞こえるぞ。	・前時で出た秋の木の実や木の葉で遊んでみたい事や見付けた虫を計画表に示し、意欲付けをする。 ・「あきみつけビンゴシート」を作成し、校庭で様々な遊びを体験させたり、生き物を見付けさせたりする。 ・毛越寺・観自在王院で「フィールドビンゴ」をさせ、分類の素地をつくる。 ・活動の写真や記録をとっておき、心に残ったことを絵や文に表す際の手がかりにする。	秋の虫や木の葉、木の実に興味をもって探そうとしている。 (観察)	木の実や木の葉を使って遊ぶ方法を考え、自然遊びを楽しんでいる。 (観察・学習シート・発表)	秋の木の実や木の葉を使って遊ぶことの楽しさに気付いている。 (発表・学習シート)
5	いろいろなはやみ⑥	◎見付けた木の実や葉の名前や特徴を調べて気付いたことを発表し、自然物を使った遊びへの意欲を高められるようにする。 ○集めた木の実や葉を見比べながら、いろいろな種類や特徴があることに気付く。 ○見付けた木の実や葉の名前や特徴を教科書や図鑑で調べたり観察したりする。 ○気付いたことや分かったことを発表する。 ○木の実や葉を使ってどんな遊びをすることができるかを知り、おもちゃ作りや工作遊びへの意欲を高める。 ・おもしろい名前の木があるぞ。 ・どんぐりっているんな種類があるんだな。 ・いろんな秋のおもちゃを作りたいな。	・集めた木の葉や木の実を、形や色で分類させ、違いに気付かせる。 ・図鑑や資料の見方を教える。 ・秋のおもちゃづくりの本を読ませ、意欲を高める。	進んで、木の葉や木の実の名前を調べたり、分類したりしようとしている。 (観察・学習シート)	必要な材料や資料を準備し、集めた木の葉や木の実を調べている。 (観察・学習シート)	木の葉には、秋になって色が変わるものと、変わらないものがあることに気付いている。 木の葉の様々な特徴に気付いている。 (発表・学習シート)

<p>あ ら わ す 2</p>	<p>あ き と あ そ ぼう ⑦ ⑧</p>	<p>◎木の実や葉などを使って遊んだり、簡単なおもちゃを作ったりして楽しむことができるようにする。 ○作りたいものを考え、活動の見通しをもつ。 ○木の実や葉の特徴を生かして、遊ぶための道具やおもちゃを作る。 ○作ったもので友達と一緒に遊んだり、遊び方を工夫して楽しんだりする。 ○活動を振り返り、身近な人を招待しようとする意欲を高める。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃは楽しいな。 ・みんなで遊びたいな。 ・もっとおもしろく工夫できないかな。○○さんに相談しよう。 ・○○くんのおもちゃがおもしろそうだな。作り方を教えてもらおう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書以外の遊び方の例を示して、意欲を高める。 ・2年生や家の人にアイデアをもらい考えるよう指導する。 ・友達と一緒に作ってもよいことを確認し、協力しておもちゃ作りをさせる。 	<p>木の葉や木の実の特徴を生かして遊びに使うものを作ったり、友達と遊んだりしようとしている。 (観察・学習シート)</p>	<p>必要な材料や道具を準備し、集めた木の葉や木の実で遊びに使うものを考え、作っている。 (作品・学習シート)</p>	<p>木の葉や木の実を使って遊ぶことの楽しさに気付いている。 (発表・学習シート)</p>
<p>ひ ろ げ る 6</p>	<p>み ん な で た の し も う ⑨ ⑩ ⑪ 本 時 ⑫ ⑬ ⑭</p>	<p>◎年長児を「あきのたからものランド」に招待して、一緒に楽しむことができるようにする。 ○「あきのたからものランド」を開く計画を立てるために話し合う。 ○遊びに使うものや、お店のコーナーに必要なものを作ったり、招待状を書いたりする。 ○幼児を「あきのたからものランド」に招待するための工夫や接し方を話し合う。 (本時3/6)</p> <p>○幼児を「あきのたからものランド」に招待し、一緒に楽しむ。 ○活動を振り返り、楽しかったことやうれしかったことを絵や文で表現する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・年長さんに楽しんでもらいたいな。 ・どうやったら、楽しんでもくれるかな。 ・考えた年長児に楽しんでもらう工夫を試したい。 ・年長さんのお世話をするのって大変だけど、おもしろいな。 ・年長さんに喜んでもらえてうれしかった。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・お店屋さんになるための心構えを考えさせる。 ・お店屋さん役とお客さん役に分かれてロールプレイングをさせ、実際の場面を想像させながら、上手なかかわり方を考えさせる。 	<p>「あきのたからものランド」を開くために話し合ったり、招待した人に説明したりしている。 (観察・発表)</p>	<p>招待した人を楽しんでもらえるようにかかわったり、方法を考えたりにしている。 (発表・学習シート)</p>	<p>招待した人を楽しんでもらうための適切なかかわり方があることに気付いている。 (発表・学習シート)</p>